

# 前立腺がんに対する「がん病巣標的化局所治療」

教授・浮村理からのメッセージ



ロボット手術のさらに次世代の新たな治療選択肢として、凍結手術は**医師主導治験**の実施中で、さらに、**Micro波治療**は**先進医療**（多施設共同**特定臨床研究**）を計画中

## キーワード

限局性前立腺がん、Focal Therapy、低侵襲、生活の質(QOL)の維持、医療費適正化

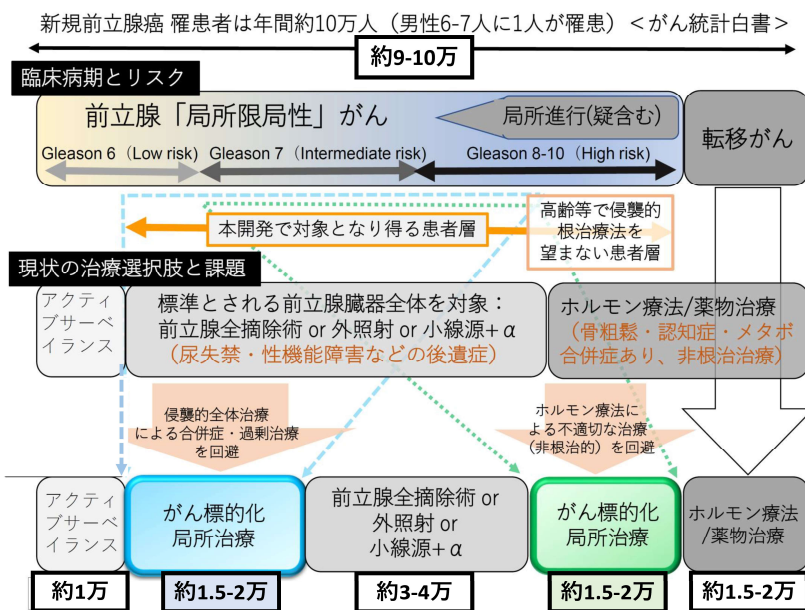
## 研究の概要

前立腺がん手術において、尿失禁を回避・性機能温存・体に優しい治療を希望する患者に対し、「癌制御」と「QOLの維持」の両立を実現する新しい選択肢(手術時間1.5時間、翌日退院可)として、病巣を部分治療し機能温存を可能にする革新的な低侵襲治療を医師主導治験にて検証する。

## 研究内容

■対象は、MRI画像で可視化されたがん疑い病巣から採取した針生検組織にて治療すべきがんが確認された限局性前立腺がん。治療は経皮的で低侵襲に癌病巣を標的化する前立腺部分治療を手術時間約1時間半で実施し術後翌日の退院が可能。

術後6か月観察し治療部位から組織採取を行い、治療すべきがんの陰性化を確認するとともに、血清前立腺特異抗原(PSA)値を治療前、術後3および6か月で実施し、加えて、治療前と治療後6か月のMRI画像を比較するが、MRI画像は、中央判定委員会を設置して効果判定を行う。主要評価項目として、PSA値の半減以上かつ画像で治療すべきがんの消失かつ治療すべきがんの組織学的陰性化を評価する。安全性は、生活の質評価として、尿失禁の有無や性機能の評価指標を含む質問票にて評価する。治験終了後には、総括報告書を作成し企業導出を行う。



## 今後の展望

- ・ Cryoablation（凍結手術）技術は、AMED資金を得て医師主導治験を実施中
- ・ Micro波熱凝固治療技術は、多施設共同特定臨床研究（先進医療）を計画中